《幼児教育》

好奇心を持って遊ぶ子の育成

～しゃぼん玉遊びでの気付きや発見を引き出す援助の工夫を通して～

那覇市立天久みらいこども園　保育教諭　謝花　真乃

〈研究の概要〉

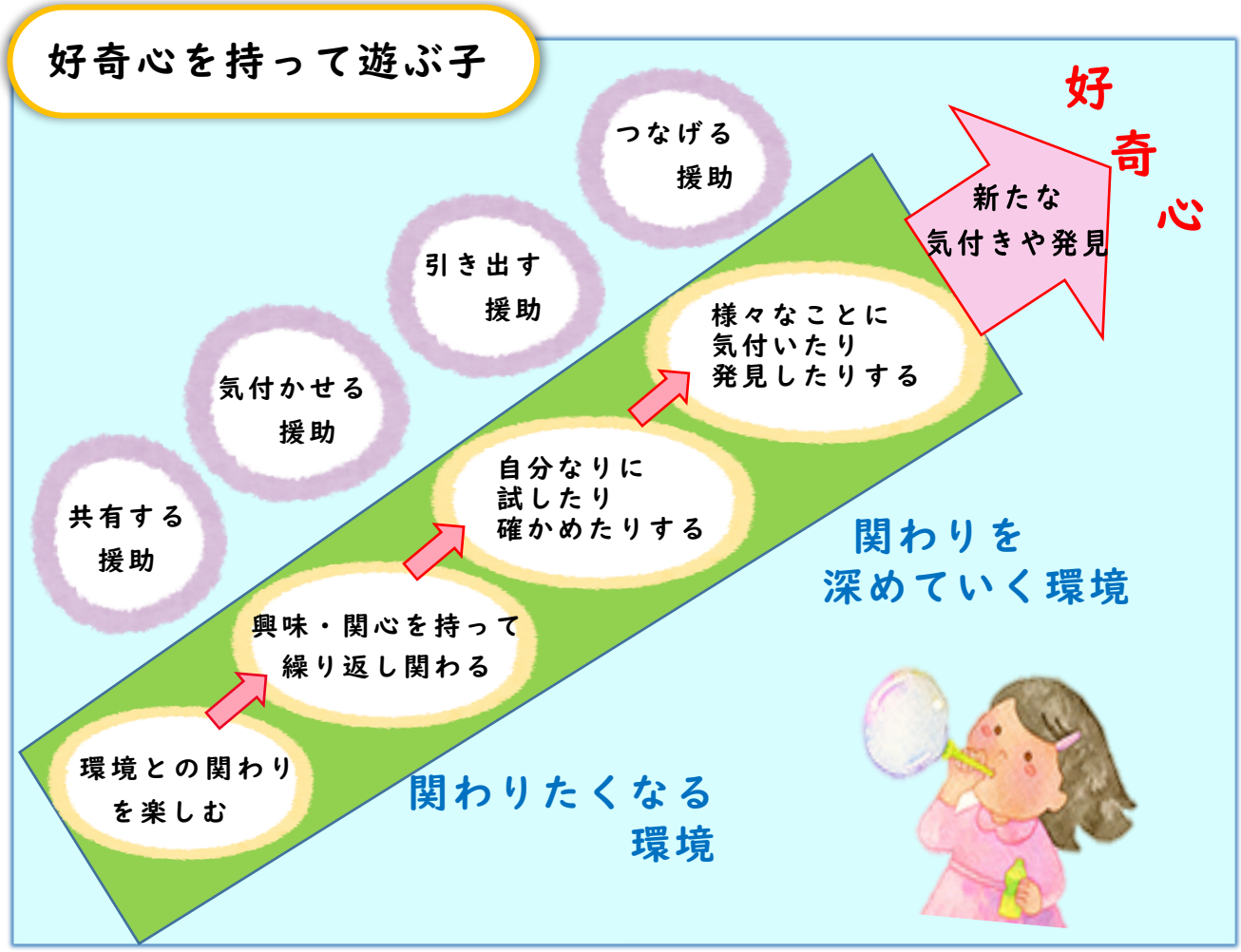
幼児は，興味・関心を持って環境に関わる中で，繰り返し遊びに取り組み，試したり確かめたりして，今まで知らなかった様々なことに気付いたり発見したりするようになる。そして，その新たな気付きや発見に心動かされて好奇心を育んでいく。

本研究では，6月～7月に予想される園児の姿を踏まえると，しゃぼん玉遊びが興味・関心を高めやすい魅力的な環境であることに着目し，焦点を当て取り組むことを構想した。園児の好奇心を引き出す視点を持って環境を構成し，その中で園児の気付きや発見を引き出していくことができるような言葉掛けの工夫を行った。

しゃぼん玉遊びの取り組みにおいて，「関わりたくなる環境」，「関わりを深めていく環境」を構成し，「遊びの面白さや楽しさを共有する」「遊びの面白さに気付かせる」「園児の発見や考えを引き出す」「園児の発想をつなげる」援助をもとに実践した。

実践を通して，気付いたり発見したりすることを楽しむ姿が見られたことから，好奇心を持って遊びに関わる姿につながったと考える。

〈研究のイメージ〉



目次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅲ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　１　好奇心について
　　(1) 好奇心を持って遊ぶ過程について
　　(2) 好奇心を持って遊ぶ過程と気付き発見する事との関わりについて
　２　しゃぼん玉遊びにおける援助の工夫
　　(1) 好奇心を引き出す環境構成の視点について
　　(2) 気付きや発見を引き出す援助の視点について

Ⅴ　保育実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　１　保育計画
　　(1) 実態把握
　　(2) 実践計画
　２　実践事例
　　(1) 事例１　しゃぼん玉遊び・雨上がりのしゃぼん玉遊び
　　考察
　　(2) 事例２　身近な道具で試してみよう
　　考察
　　(3) 事例３　道具作り・作った道具でしゃぼん玉遊び
　　考察
　３　保育実践を通しての園児の変容
　　(1) 観察と聞き取りの結果
　　(2) 抽出児の変容

Ⅵ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　１　成果
　２　課題

《主な参考文献》

《幼児教育》

好奇心を持って遊ぶ子の育成
～しゃぼん玉遊びでの気付きや発見を引き出す援助の工夫を通して～

那覇市立天久みらいこども園　保育教諭　謝花　真乃

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下教育・保育要領）の領域「環境」には園児と環境との関わりについて「ただ単に環境の中にあるものを利用するだけではなく，そこで気付いたり，発見したりしようとする環境に関わる態度を育てることが大切である。」と記されている。このことより，園児が環境に関わる中で，自ら気付いたり発見したりすることが，園児の発達にとって重要であるといえる。

また，保育教諭の役割について,「環境の中にあるそれぞれの物の特性を生かしつつ，その環境から園児の好奇心や探究心を引き出すことができるような状況をつくるとともに，それぞれの園児の考えを受け止め，そのことを言葉にして園児に伝えながら，更なる考えを引き出していくことが求められる。」と記されている。このことより，保育教諭は園児の身近な環境の中にある様々な素材の特性を理解し，園児の好奇心を引き出すための視点を持って環境構成を図ることが大切であるといえる。さらに，保育教諭は園児がその環境との関わりで得た気付きや発見を受け止め言葉で表すことで，園児の好奇心を引き出していくことが重要であると考える。

これまでの私自身の保育を振り返ってみると，園児一人一人の興味・関心に沿った活動を展開していけるよう環境構成を図り，その中で園児に遊びの面白さを味わわせるような援助を意識して行ってきた。しかし，学級における園児の実態をみると，ものや人との関わりが深まってきても，同じ遊びだけで満足しており，新しい遊びに積極的に関わる姿や，そこから楽しさを味わったり，気付き発見したりする子の姿が少ないと感じる。これは，園児の好奇心を引き出し，面白さに気付かせていく保育教諭による環境の構成が充分ではなかったこと，さらに，園児の気付きや発見を，具体的な言葉掛けによって引き出す保育教諭の援助が不足していたためだと考えられる。

本研究では，園児の好奇心を引き出していく環境を工夫し，その中で気付いたり発見したりする面白さを味わわせる実践研究を行う。様々な活動の中から，長期指導計画第Ⅱ期（6月～8月）に挙げている，園児の興味・関心を誘いやすく，素材の特性を活用しやすい“しゃぼん玉遊び”に焦点をあてた実践とする。また，保育教諭が一人一人の園児の気付きや発見を受け止め，言葉で伝えることで園児の好奇心をさらに引き出し，周囲の環境との関わりを深めることができるような援助の工夫について研究したいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

園児が好奇心を持って遊ぶ姿を目指し，しゃぼん玉遊びを通して，気付いたり発見したりすることができるような援助の工夫について，実践的に研究する。

Ⅲ　研究構想図

【本研究でめざす子ども像】
「好奇心を持って遊ぶ子」

【研究テーマ】
好奇心を持って遊ぶ子の育成
～しゃぼん玉遊びでの気付きや発見を引き出す援助の工夫を通して～

【研究目標】
園児が好奇心を持って遊びに関わる姿を目指し，しゃぼん玉遊びを通して，気付いたり発見したりすることができるような援助の工夫について，実践的に研究する。

【研究方法】
1. こども園教育・保育要領を踏まえ理論研究を行う。
2. 好奇心を持って遊ぶために，しゃぼん玉遊びを通して気付いたり発見したりする援助の工夫について考える。

【保育実践】「しゃぼん玉遊びを通して」

3. 保育実践を省察し，園児理解と環境構成，援助が適切であったかを確認する。

【社会的背景】【園児の実態】【保育教諭の願い】【保育の反省と課題】

Ⅳ　研究内容

1　好奇心について

(1) 好奇心を持って遊ぶ過程について

教育・保育要領解説「環境」には，幼児期の特性について，園児は環境に好奇心や探求心をもって主体的に関わり，自分の遊びや生活に取り入れていくことを通して発達していくと示されている。そして，園児が積極的に周囲に目を向け，関わるようになるためには，園児の心が安定していなければならないと示されている。これらのことより，園児は心の安定を基盤として環境と積極的に関わり，それを楽しむ過程を経て発達していくと捉えることができる。その発達を促すためには，園児が好奇心を持って遊ぶ過程に沿った保育教諭の援助が重要であると考える。

(2) 好奇心を持って遊ぶ過程と気付き発見する事との関わりについて

砂上（2007）は，好奇心とは，未知のものや新奇なものに興味・関心をもち，それらに接近したり探索したりしようとすることであると述べている。無籐（2018）は，園児と環境との関わりについて，園児は身近な環境に積極的に関わる中で，様々なことに気付き，考え，予想し，工夫し，試すといった関わりを楽しむようになる。園児は，これまで積み重ねてきた経験からすでに知っていることがあり，知っていることと知らないことの区別が生まれ，知らないことや新たに気付いたことに心動かされると論じている。このことから，園児は環境に興味・関心を持って関わる中で，今まで知らなかった新たなことに気付き発見していき，好奇心を育んでいくと捉えることができる。そこで，本研究では，好奇心を持って遊ぶ過程を丁寧に捉えるとともに，園児に新たな気付きや発見と出会わせる保育教諭の援助のあり方を検討していく。
(1)，(2)での研究内容を踏まえ好奇心を持って遊ぶ過程について図１にまとめた。

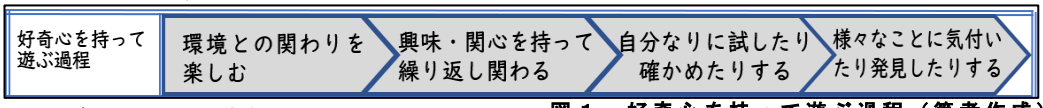


図１　好奇心を持って遊ぶ過程（筆者作成）

2　しゃぼん玉遊びにおける援助の工夫

(1) 好奇心を引き出す環境構成の視点について

神長（1998）は，好奇心を引き出す環境について，驚きや発見の喜びなどの感動体

験が，園児の好奇心を引き出していると述べている。さらに，園児は環境に対して興味・関心があるからこそ感動するのであるとも示している。このことより，保育教諭は園児の興味・関心の広がりに沿って，好奇心を引き出す環境構成を図っていく必要があると考える。

６月～７月の園児の姿として，「水の感触を楽しみ，様々な材料や用具を使って，試したり，工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ」ことが予想される。この時期の園児の興味・関心を高めやすい魅力的な環境の一つであるしゃぼん玉遊びは，多くの園児が経験したことのある遊びで，遊びのイメージを持ちやすく，興味を持って楽しむことができる活動である。しゃぼん玉は，その変化の過程を楽しむことができ，何度も繰り返し試せる特性を持つ。さらに，身近な用具や素材が加わることによって，園児に多様な驚きや発見の喜びを味わわせ，好奇心を引き出すことができると考える。これらの特性に着目し，本研究を進めていくこととした。

本研究では，図１の「好奇心を持って遊ぶ過程」に基づき，それぞれの過程においての好奇心を引き出すための環境構成をしていく。その際の視点として，興味・関心を持たせるための「関わりたくなる環境」と比べたり試したりしながら気付きや発見へとつなげていく「関わりを深めていく環境」を図２にまとめた。さらに，しゃぼん玉遊びへの園児の関わり方を図３のように予想し，興味・関心の広がりに沿って好奇心を引き出すための環境構成を行っていく。

好奇心を持って遊ぶ過程	環境との関わりを楽しむ → 興味・関心を持って繰り返し関わる → 自分なりに試したり確かめたりする → 様々なことに気付いたり発見したりする	
環境構成	関わりたくなる環境	関わりを深めていく環境
	・園児の興味・関心が広がっていき，十分に遊びを楽しめるような場を設定する。 ・園児のやってみたいという思いが実現できるように，材料や用具の準備をする。	・友達の発見や考えを聞いたり，自分の考えを言ったりして互いの考えに気付ける場面を作る。 ・比べたり,試したりできるようにいろいろな種類の素材や材料，用具等を準備する。

図２　好奇心を引き出すための環境構成の視点（筆者作成）

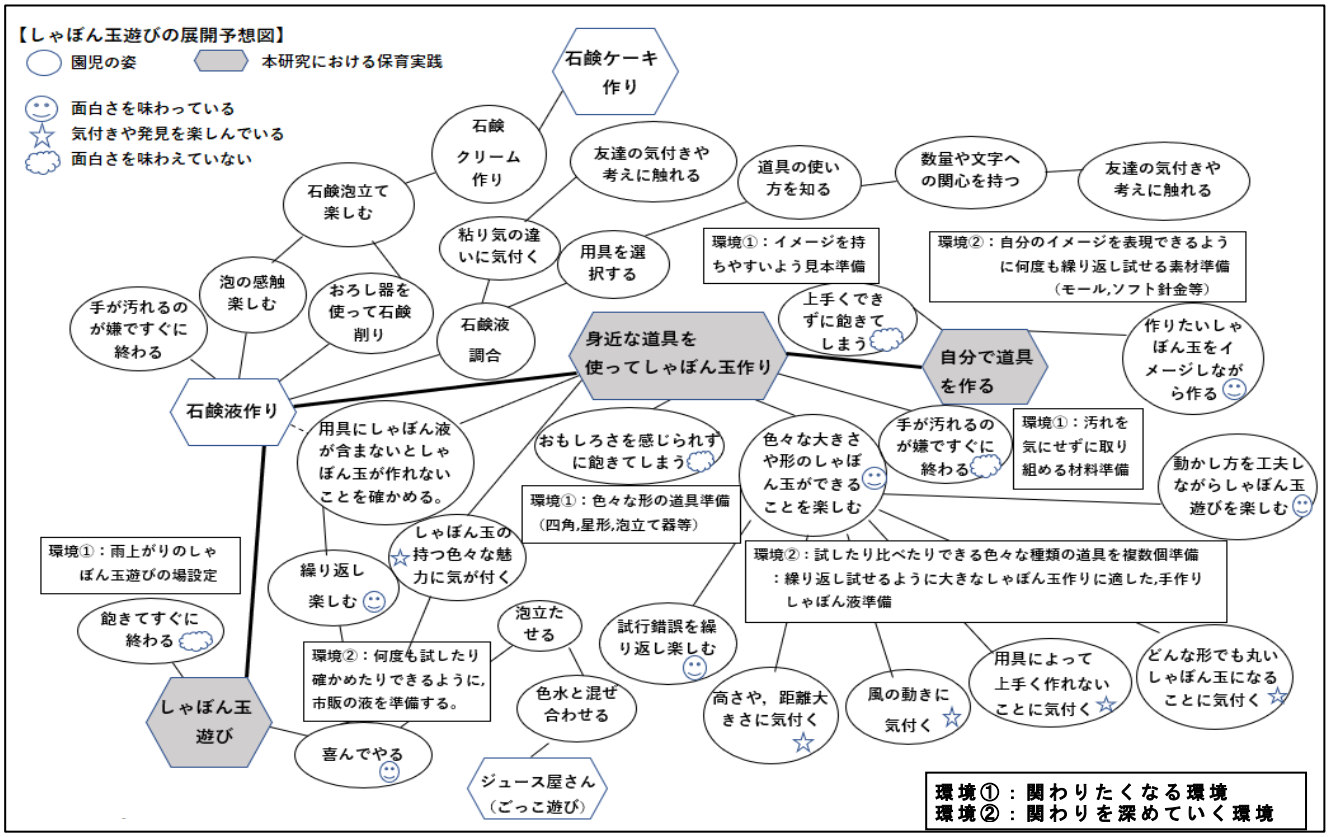


図３　しゃぼん玉遊びの展開予想図（筆者作成）

(2) 気付きや発見を引き出す援助の視点について

無籐（2018）は，園児の気付きや発見を引き出す援助について，保育教諭が園児の発見や気付きを言葉に表すことで，園児が気付きを意識していくことが大切であり，このことで，園児は分かる喜びを実感し，自ら考えよう，もっと試してみようとする意欲が育まれていくと論じている。さらに神長(1998)は，保育教諭が園児の発見に気付き，何に心が揺れ動いているのか理解することが大切であると述べている。このことより，園児の気付きや発見を引き出していくためには，保育教諭も園児と一緒に遊びに取り組む中で面白さに共感し，園児の考えを言葉で表現していくことが大切であり，そのためには，園児の気付きや発見を丁寧に捉える保育教諭の視点が重要であるといえる。

また，教育・保育要領解説の中では，園児が友達の考えに触れることについて「園児は友達の考えに刺激を受け，自分だけでは発想しなかったことに気付き，新しい考えを生み出す。」と記述されており，園児が互いの考えに触れることで，新しい気付きへとつながっていくといえる。本研究では,園児なりの発想を保育教諭が丁寧に捉え，他児に伝えていく仲立ちとなることで，園児が気付いたり発見したりする面白さをより味わえると考える。そこで，園児の発想をつなげていくために，振り返りの場を園児と一緒に「あったかタイム」と名付けて設定した。

これらのことを踏まえて，遊びの場や振り返りの場において，園児の気付きや発見を引き出していく保育教諭の言葉掛けが重要であると考える。実践の中で「面白さや楽しさを共有する」「面白さに気付かせる」「園児の発見や考えを引き出す」「園児の発想をつなげる」の４つの視点を持って援助を行っていき，言葉掛けの工夫を図る。気付きや発見を引き出すための援助の視点について図４にまとめた。本研究では,図２，図４に基づいて実践を行う。

好奇心を持って遊ぶ過程	環境との関わりを楽しむ	興味・関心を持って繰り返し関わる	自分なりに試したり確かめたりする	様々なことに気付いたり発見したりする
園児のつぶやき	「これ何？」 「おもしろそう！」 「どうなっているの？」 「やってみたい！」 「ぬるぬるする」等	「また～してみよう」 「さっきは～だったのにね」 「今度は～してみよう」 「すごい！～になったよ」等	「～したらいいんじゃない？！」 「～したらどうなるんだろう？」 「～したからこうなるんじゃない？」等	「わかった！～だからだよ」 「～したら△△になるよ」→「ほらね！」等
援助の視点	【援助①】遊びの面白さや楽しさを共有する（共有する） ・園児が何に心を動かしているのか，どこに気が付いているのか等の興味関心を探る。 ・保育教諭も一緒に遊びに取り組み，おもしろさに共感したり，感じたことを言葉で伝えたりしていく。	【援助②】遊びの面白さに気付かせる（気付かせる） ・園児の遊びがより楽しく，おもしろくなるように一緒に遊びを楽しむ中でアイディアを引き出したり提案したりしていく。 ・遊びの取り組み方から,それぞれの園児が何を楽しみ,何を実現しようとしているのかを捉え,一人一人に応じた援助をしていく。	【援助③】園児の発見や考えを引き出す（引き出す） ・遊びの中で発見したことや園児なりの考えを引き出していけるように言葉掛けをしていく。 ・比べたり試したりしながら遊びを進める楽しさが味わえるように,比較できる言葉掛けをしていく。	【援助④】園児の発想をつなげる（つなげる） ・小さな驚きや発見などの喜びを受け止める。 ・園児の発想を周囲に伝えていき,自分なりに分かったことを実感させたり，友達の考えに気付かせたりしていく。
言葉掛け例	「不思議だね！」 「～しておもしろいね」 「〇〇さんの好きな形もできるかな？」 「先生と一緒にやってみよう。」 「楽しかったね。明日もやろうね！」	「次は～してみようよ！」 「～したらどうなるのかな？」 「～を作ってみたいんだね！」 「～できるか確かめているんだね。」 「試してみたら～になったよ。面白いね！」	「～よりも高い所まで飛んだね」 「～から△△ぐらいまでの大きさだったね」 「どうして～になるんだろうね？」 「さっきは～だったのにどうして△△になったのかな？」	「〇〇さんが発見したよ！」 「～したからできたんだね！」 「～するためには，△△すればいいんだね！」 「〇〇さんと同じようにやってみる？」

図４　気付きや発見を引き出すための援助の視点（筆者作成）

Ⅴ　保育実践

1　保育計画

(1) 実態把握（４月，５月）

保育教諭による観察をもとにして，「好奇心を持って遊ぶ過程」を踏まえて園児の遊びの実態を図５にまとめた。その結果，8 名の園児が様々な物や人に積極的に関わりながら遊んでいることが伺えた。一方で，16 名の園児が環境との関わりを楽しむことで満足していた。このことより，好奇心を持って遊ぶ姿が少ないことがわかった。

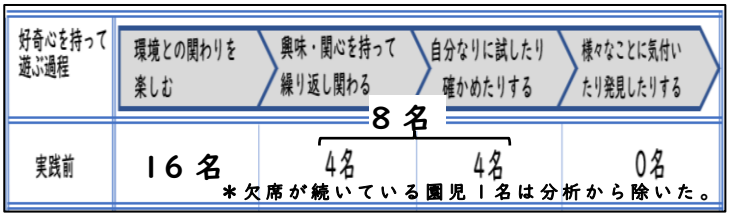


図５　遊びにおける園児の実態

(2) 実践計画

実践		◇ねらい　・内容
６月 （第４週）	○しゃぼん玉遊び ○雨上がりのしゃぼん玉遊び 【事例１】	◇友達や保育教諭と一緒にしゃぼん玉遊びを楽しむ中で，不思議さや面白さを味わう。 ・身近な道具を使って，しゃぼん玉遊びに取り組む。 ・気の合う友達と一緒にしゃぼん玉遊びを楽しむ。
６月 （第５週）	○身近な道具で試してみよう 【事例２】 ○石鹸液作り ○固形石鹸削り	◇様々な材料や用具に興味を持ち，試したり確かめたりする楽しさを味わう。 ◇友達と一緒に水や石鹸等の感触を味わいながら遊びを楽しむ。 ・様々な材料や用具を選んで使い，繰り返し試したり，確かめたりして遊ぶ。 ・材料の特性や使い方について，気付いたことを友達と伝え合って遊ぶ。
７月 （第２週）	○道具作り ○作った道具でしゃぼん玉遊び 【事例３】	◇様々な材料や用具を使い，試したり工夫したりする面白さを味わう。 ◇友達の気付きや考えに関心を持つ。 ・様々な材料や用具を自分なりに工夫して使い，遊びに必要な物を作る。 ・友達から刺激を受けたり，互いに考えを出し合ったりして遊ぶ。

2　実践事例

しゃぼん玉の持つ特性の面白さに気付かせることで，園児の興味・関心を広げていけるよう，場の設定を行った。また，遊びへの関心の高まりと共に，園児の気付きや発見を引き出していけるよう，様々な形の道具を準備したり，道具作りの場を設定したりしながら，しゃぼん玉遊びを進めていった。その中で，保育教諭が一人一人の園児の好奇心を引き出せるように援助の視点を持った環境構成を行い，園児の気付きや発見を受け止め，言葉で伝えることで園児の好奇心をさらに引き出していけるような保育実践に取り組む。また，活動後には「あったかタイム」と名付けた振り返りを行う。振り返りの場では，風船を園児の心に見立てて利用した。「ワクワクする気持ちが貯まると，心も風船みたいに大きく膨らむ」という話をし，園児が伝えたくなるような場の雰囲気作りを行い，園児の気付きや発見を引き出せるように援助を行った。

しゃぼん玉遊びにおける園児の姿(6 月)

・クラスのほぼ全員が経験したことのあるしゃぼん玉遊び。ほとんどの園児が，昨年度の経験から自然にしゃぼん玉遊びに興味を持ち始めたので，保育教諭は環境の中に材料や用具を用意した。しかし,昨年度と同じような活動内容のしゃぼん玉遊びに対して関心が薄れてきており，少し遊ぶとすぐに次の遊びに移っていく。そのため,繰り返し取り組む中で気付いたり発見したりする面白さを味わっている子は少ない。

(1) 事例１　しゃぼん玉遊び・雨上がりのしゃぼん玉遊び

【環境構成の工夫】 ⇦ 例年は雨天時には室内遊びを準備している。

☆園児の好奇心を引き出していくための場の設定として，雨の日ならではのしゃぼん玉の特性に気付き面白さを味わってほしいため，雨上がりのタイミングを見逃さないようにする。さらに，その不思議さについて書かれている絵本を準備する。【関わりたくなる環境】

保育教諭の援助	園児の姿・言葉
【援③：引き出す】「しゃぼん玉が作れる時と作れない時があるんだよね。どうしてだろうね？」	道具にしゃぼん液がつかないとしゃぼん玉ができないことに気付いている様子のA児。道具を動かす前に,しゃぼん液がついているか確かめる姿が見られる。
【援③：引き出す】「これって何だろうね？」	「(膜を指さして)これがないからだよ！」
【援④：つなげる】「本当にガラスみたいだね。よく見つけたね。」	「う～ん･･･。(ちょっと考えてから)ガラスの膜！！」
【援④：つなげる】「(あったかタイム)Aさんが凄い発見をしたんだって。何だろうね？教えてくれますか。」	「うんとね･･･。ガラスの膜がないとしゃぼん玉はできないの。」
【援④：つなげる】「ガラスの膜って何だろうね？」「明日,作って見せてもらおうか！」	
月刊絵本『あめあがりのしゃぼんだま』読み聞かせ【援②：気付かせる】	「雨の日でもしゃぼん玉できるの？！やりたい」「本当だ！下に落ちても割れない」「ゆっくり動いているみたい！」
【援①：共有する】「絵本と同じだね。」「草についても,ホースについても割れないんだね。」「不思議だね。」	「割れるんじゃなくて,消えていくみたいだよ」
【援②：気付かせる】「どうやって割れるか調べているんだね。」	「雨が降って濡れているからじゃない？」「晴れている日どうだっだかな？忘れちゃった。今度試してみよう」
【援③：引き出す】「どうして雨の日は割れないんだろうね？」「晴れている日は,どうだった？」	しゃぼん玉を地面に向かって作り,どんどん積み重ねているB児。
【援③：引き出す】「わ～面白い！しゃぼん玉がどんどん高くなっていくね。」「どうやったらこんなに高くなるの？」	「上にどんどん高くしても,しゃぼん玉が割れないからだよ。」
【援④：つなげる】「大発見だね！先生もやってみたい」「本当にできた！」「(あったかタイム) B さんが面白いもの作っていたんだよ。何を作っていたか教えてくれるかな？」	「泡のお城を作ったよ」「最後は泡が消えてくもの巣みたいになりました。」

【考察】

◆「関わりたくなる環境」として雨上がりにしゃぼん玉遊びの場を設定したことで，しゃぼん玉の新たな特性に興味・関心を示すようになり，しゃぼん玉遊びに好奇心を持たせることができた。さらに，雨の日のしゃぼん玉の特性について書かれた絵本を準備したことで，園児がその場面を実際に再現して確かめ，気付きや発見につなげていた。園児のやってみたいという思いが実現できる場の設定ができたと考える。

◆「共有する援助」として保育教諭も一緒に遊びに取り組み，雨上がりのしゃぼん玉ならではの面白さに共感し，感じたことを言葉で伝えたことで，本当にできるのか試してみるようになり，繰り返し遊ぶようになった。遊びの面白さを共有することで，園児が興味・関心を持ち，繰り返し関わるようになったと考える。

◆「気付かせる援助」として，園児がしゃぼん玉の割れる様子を見つめている場面を捉え，園児の気付きや発見を言葉で具体的に表現することで，園児が不思議に感じていることに意識を向けるようになり，繰り返し取り組み確かめる姿が見られた。しゃぼん玉の面白さに気付かせることができたと考える。

◆「引き出す援助」として，遊びの中でしゃぼん液の膜の存在に気が付いた園児の姿を見逃さずに，その気付きを園児なりに表現できるように言葉掛けをしたことで，しゃぼん液の膜の事を「ガラスの膜」と表現し，自分の気付きを言葉にして伝える姿につ

ながった。また，雨の日ならではのしゃぼん玉の様子に不思議さを感じている姿や，発見を取り入れてしゃぼん玉を積み重ねている姿を捉え園児の疑問や考えを引き出せるような言葉掛けをしたことで，自分なりの予想をするようになり，発見したことを伝えていた。このことより，園児の考えや発見を引き出すことができたと考える。

◆「つなげる援助」として振り返りの場（あったかタイム）で，しゃぼん液の膜を「ガラスの膜」と表現した園児の発想をクラス皆に伝えたことで「ガラスの膜」が共通の言葉となり,「ガラスの膜」を友達と確かめ合い繰り返し楽しむ姿が多く見られた。また，積み重ねたしゃぼん玉を「泡のお城」に見立てて楽しんでいる園児の発想をつなげたことで，他児もその発見を確かめようとする姿につながった。このことより，互いの気付きや発見をつなぐことができたと考える。

(2) 事例２　身近な道具で試してみよう

【環境構成の工夫】 ⟸ 例年は，市販の道具やストロー類を準備している。

☆遊び方のヒントとなるような本を，園児が自分で見ることができるように置いておく。また，遊びや振り返りの場での発見や気付きを可視化できるように掲示する。【関わりたくなる環境】

☆これまで使っていた道具に加え，色々な形の身近な道具（うちわ，網焼き器，泡立て器等）を準備し，自分達で試したり確かめたりできるようにする。【関わりを深めていく環境】

保育教諭の援助	園児の姿・言葉
月刊絵本『しゃぼんだまとあそぼう』読み聞かせ【援②：気付かせる】	「本当にできるのか試してみたい」「本当にうちわでもしゃぼん玉できた」「網でもできるよ！」
【援③：引き出す】「丸い形じゃないのにできるんだね」「できない道具もあるね。どうしてだろう？」	「(泡立て器を指さして)これでもできるから,全部できるんだよ」 「これには,小さくてガラスの膜が付かないからだよ。
【援③：引き出す】「凄い！葉っぱでもできるの？どうして？」	葉っぱに穴を開けて，しゃぼん玉作りを試している。
【援④：つなげる】「大発見だよ！」「葉っぱでもガラスの膜ができるんだって！」「発見を他の皆にも教えてあげよう！」園児の発見を写真に写し,あったかタイムで紹介する。	「ガラスの膜が付いたからできるかなーと思ったらできた。」

【考察】

◆「関わりを深めていく環境」として身の回りにある色々な形の道具を準備したことで，園児が道具の形の違いによってどんなしゃぼん玉ができるのか関心を持つようになり，何度も繰り返し試すようになった。その中で，　四角や細かい網でも丸い形のしゃぼん玉ができることを発見し喜んでいた。このことより，園児が道具との関わりを深めていき，発見を楽しむことができたと考える。

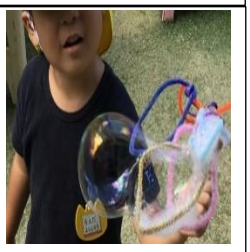
◆「引き出す援助」として，　道具の種類に関係なく,『ガラスの膜』ができればしゃぼん玉ができるかもしれない事に気が付き始めた園児の姿を見逃さずに，その気付きを園児なりに表現できるように言葉掛けをしたことで，自分なりの予想を立てて考えるようになり，試したり確かめたりする姿が見られた。このことより，園児の考えや発見を引き出すことができたと考える。

◆「つなげる援助」として，　葉っぱに穴を開けて「ガラスの膜」を作っている園児の発想を保育教諭が言葉で表したり，写真を使って掲示をしたりして周囲の友達へつなげたことで，　他児もその発見を確かめようと関わるようになり，周囲の友達と新しい発見を共有し楽しんでいた。このことより，互いの気付きや発見をつなぐことができたと考える。

(3) 事例３　道具作り・作った道具でしゃぼん玉遊び

【環境構成の工夫】 ⟸ 例年は，ストロー類やラップの芯等の廃材を準備している。

☆園児でも形を自在に変えやすい素材（モール，ソフト針金，割り箸等）を準備し，自分の作りたいしゃぼん玉をイメージしながら，繰り返し試したり確かめたりしながら道具作りを進める楽しさが味わえるようにする。【関わりを深めていく環境】

保育教諭の援助	園児の姿・言葉
【援①：共有する】　【援②：気付かせる】 「小さいしゃぼん玉がたくさんできるの？」「ねこの形だから,ねこのしゃぼん玉ができるのかな？！　」 【援③：引き出す】 「丸い形じゃなくてもできるの？」 「おもしろい形だね！どうしてこの形にしたの？」 【援④：つなげる】 「なるほど。そういう考えだったんだ。しゃぼん玉作れるか試す時は,先生にも見せてね！」	「この形にしたら,小さいしゃぼん玉がたくさんできるはずよ。」「みてみて～。ねこの形ができた！」 「うちわとか網でもできたから,丸い形じゃなくてもいいんだよ。」 モールだけを絡み合わせて道具を作っている。 「えー。だって,ガラスの膜ができればしゃぼん玉は作れるから,これでもきっと大丈夫だよ。」
【援①：共有する】 「本当だ！凄いね。先生にもやらせて。」 【援③：引き出す】 「あれ？！割れちゃった。どうして先生の指を入れたら割れるんだろう？！」「先生の指が大きいからかな？」 【援④：つなげる】 「本当だ！大発見だね。もう一回先生にもやらせて。」周囲にいる園児も一緒に試す。	「先生！見ててよ。ガラスの膜に手（指）入れても割れないよ」 「えー。そうなのかな？何でかは分からないや。」その後,周囲にいる友達にも同じように声をかけやってみせる。 「わかった！私の手は濡れているけど,先生の手は濡れていないからだよ！」「手濡らしてみてー。」 手にしゃぼん液が付いていると,しゃぼん玉が割れない事に気付く。しゃぼん玉を割らないように,手の平でキャッチする遊びが広がった。
【援③：引き出す】 「どうして,小さい道具を使う時には下から上に 動かさないの？」 【援③：引き出す】 「どうして大きい道具の時には,ぐるぐる回さないの？」 【援④：つなげる】 「小さい道具には,いっぱい穴があるからゆっくり動かしたらできないんだって。早く動かさないとできないんだ。Bさんは,道具で動かし方を変えているんだね。」	「くるくるまわした方がいっぱいしゃぼん玉できるから。」 「ぐるぐる回さなくても,ゆっくり動かした方が大きいしゃぼん玉ができるから。  B児の話を聞いて,動かし方の真似をして繰り返し試す他児の姿が見られた。しゃぼん玉ができたら,嬉しそうな表情で保育教諭に合図を送る。
【援③：引き出す】 「本当だ！水道の所から倉庫の入り口の所までの長さだったね」	「先生！さっき,こ～んなに大きいしゃぼん玉ができたよ。もう一回やるから見ててよー。」「ほらできた。」 「さっきは,水道からテラスの所までだったよ！」 「僕も,水道からテラスの所まで作れるかやってみたい」
【援③：引き出す】 「凄いね～。小学校のベランダの高さまで飛んでいるね。」 【援③：引き出す】 「本当だ。動かさなくてもできるんだね。」 「どうして？」 【援③：引き出す】 （風向きとは反対の方に道具を向ける） 「先生はできないよ。」	「先生見て～。あんなに高い所まで飛んだよ」 「私のしゃぼん玉は,小学校の屋根の所まで飛んでいるよ」 「うわぁ。凄い！何もしなくても,ただ持っているだけでしゃぼん玉ができる！」「ほらできた。」 「風だよ！風が吹いているからだよ」 「こっちに向いて立つんだよ。そうしたら風が当たるからほらできたでしょう。」
【援③：引き出す】 「どうしたらしゃぼん玉がたくさんつながってできるの？」 【援③：引き出す】 「そうか。横に動かすといいんだね。」	「（実際に振って見せながら）こんなやって動かすわけさ。」 （あったかタイムで皆に伝える場面） 「今日は,道具を横に動かしたら，いっぱいのしゃぼん玉ができました。」

【考察】

◆「関わりを深めていく環境」として何度でも形を変えられるモールやソフト針金等の材料を準備し，園児に使いたい材料を自由に選ばせるコーナーを設けたことで，意欲的に材料を手に取り，自分なりに道具を作ってみようとする姿が見られ，繰り返し関わるようになった。さらに，園児がイメージ通りの道具を作るために何度も形を変えながら試したり，イメージしたしゃぼん玉を作るために何度も確かめたりしていた。このことより，園児が材料との関わりを深めていき，発見を楽しむことができたと考える。

◆「引き出す援助」として道具の動かし方を意識できるような言葉掛けをしたことで，園児が動かし方に意識を向けるようになり，しゃぼん玉の道具に合わせて動かし方を変えたり，自分のイメージしたしゃぼん玉が作れるように何度も繰り返し試したりしていた。風の動きに関心が持てるような言葉掛けをしたことで，風向きに合わせて道具を高く上げる姿が見られ，風の動きを発見し喜んでいた。しゃぼん玉の飛ぶ様子から高さや，距離等にも関心を向けることができるように，保育教諭が比較できる言葉掛けをしたことで，身近な物としゃぼん玉の大きさや高さ等を比較するようになり，その様子を自分なりの言葉で伝える姿が見られた。このことより，園児の発見や考えを引き出すことができたと考える。

◆道具の動かし方を尋ねると，言葉ではなく動作でやって見せる子が多かった。「つなげる援助」として，保育教諭がその姿から表現したい事を捉え，具体的に言葉にして伝えることにより，その言葉を使って友達に説明するようになった。互いの発想に刺激を受け，繰り返し試す姿につながった。このことより，園児の発見の喜びを受け止め発想をつなげることができたと考える。

◆「つなげる援助」として手に石鹸液がついていると膜に手を入れても破れないことに気付いた園児の発想の喜びを受け止めて，保育教諭も一緒に試したことで，他児もその発見を試してみようと繰り返し関わり，しゃぼん玉の性質を共有するようになった。その発見を友達同士で共有したことで，性質を取り入れた遊びへと展開した。道具によって動かし方を変えている園児の発想を，あったかタイムで知らせてクラス皆につなげたことで，他児も動かし方に意識を向けるようになり，繰り返し試して成功した喜びを味わっている姿が見られた。このことより，園児の発想をつなげることができたと考える。

3　保育実践を通しての園児の変容

(1) 観察と聞き取りの結果

実践後にしゃぼん玉遊びの中で楽しかったことについて聞き取りを行ったところ，全員が遊びの中での，自分なりの気付きや発見をあげた。（表１）。さらに，実践前と実践後における園児の姿を比較すると（図６），実践前には環境との関わりを楽しむことで満足していた 16 名の園児全員に変容が見られた。また，19 名の園児が遊びの中で気付きや発見をして楽しんでいたことが伺えた。これらのことから，様々なことに気付いたり発見したりすることができ，好奇心を持ってしゃぼん玉遊びに関わる姿につながったと考える。

表１　しゃぼん玉遊びでの気付きや発見

- A君の言っていたガラスの膜があると，本当に大きいしゃぼん玉ができるんだよ。
- 道具に付いたガラスの膜を動かしたら，しゃぼん玉ができるけど，手についたガラスの膜を動かしてもしゃぼん玉はできないよ。
- 遅く動かしたら，割れる時もあるけど，大きいのができるよ。　等

好奇心を持って遊ぶ過程	環境との関わりを楽しむ	興味・関心を持って繰り返し関わる	自分なりに試したり確かめたりする	様々なことに気付いたり発見したりする
実践前	16名	4名	4名	0名
実践後	0名	1名	4名	19名

図６　しゃぼん玉遊びにおける園児の姿

(2) 抽出児の変容

実践前に環境との関わりを楽しむことで満足している園児の中から，抽出児としてC児を取り上げた。C児は，新しい環境に積極的に関わることが苦手な様子がある。保育実践を進める中で，特に「面白さや楽しさを共有する」「面白さに気付かせる」援助を意識して行った。保育教諭は，園児の興味・関心を探りながら，心の動きを丁寧に

捉えていく。そして，気付きや発見の面白さを味わっている場面を逃さずに，園児とその面白さを共有した。実践後には，しゃぼん玉遊びを通して気付きや発見をする姿が見られ，変容を捉えることができた。

実践前のＣ児の姿 ・新しい活動や苦手意識のある活動に対して不安感を強く示し,友達の様子を側から見ている場面が多い。しゃぼん玉遊びを始めた当初も,離れた所から友達の様子を見守る事が多かった。	
保育教諭の援助	園児の変容
・本児に石鹸液の感触を味わわせる場を作るため,石鹸液の片付け等に積極的に誘い，一緒に取り組んだ。その中で,「気持ちいいね」「いい香りだよ！」等の言葉掛けを行い,本児の表情が明るくなり楽しむ様子を捉え,遊びの面白さを共有する。 ・しゃぼん玉が作れた喜びを味わっている表情を見逃さずに,しゃぼん玉の具体的な形を言葉で表現しながら，保育教諭も一緒に試して作り,しゃぼん玉作りの面白さに気付かせる。 ・一緒に遊びに取り組む中で,どんなしゃぼん玉を作りたいのか,どんな道具を作りたいのか等,本児の実現しようとしていることを捉え,具体的に言葉で表し,本児のイメージを引き出していく。 ・本児の言葉から遊びの面白さへの気付きが読み取れた時は，見逃さずに受け止める。その気付きや本児なりに工夫していることを友達と共有できるように,写真を使って掲示をし,周りの園児につなげていく	・友達や保育教諭と一緒に石鹸の感触を楽しむ中で,安心感を持ってしゃぼん玉遊びに取り組むようになり，興味･関心を持って関わる場面が見られるようになってきた。 ・自分なりの気付きや発見が,周囲から認められる喜びを味わったことにより,遊びへの充実感を持って繰り返し取り組むようになった。 ・友達の気付きや発見も取り入れながら,何度も繰り返し取り組み,自分のイメージしたしゃぼん玉を作ろうと試したり,イメージとは違うしゃぼん玉の形に驚いたりして,気付きや発見を楽しむ姿も見られた。

【考察】

◆友達の遊びを見守る本児の姿を受け止め,「やってみたい」という気持ちを引き出せるよう寄り添い,一緒に遊びに取り組んだ。苦手意識を感じないように,遊びの面白さを伝えたり,共有したりすることで,本児が安心感を持って遊びに取り組むようになり,興味・関心を持って関わるようになった。また,遊びの中で,保育教諭が本児の作りたいイメージを具体的に言葉にして表したり,本児の気付きや発見の喜びを受け止めたことで,自分なりの目標を持って取り組むようになり,繰り返し試したり確かめたりするようになった。その中で,新たな気付きや発見を見つけて楽しんでいた。このことから,しゃぼん玉遊びへ好奇心を持って関わる姿につながったと捉える。

Ⅵ　成果と課題

１　成果

(1) 保育教諭が園児の好奇心を引き出すために「関わりたくなる環境」と「関わりを深めていく環境」の視点を持って，環境構成の工夫を行ったことで，園児は積極的に遊びに取り組み，繰り返し試したり，確かめたりするようになり，新しい気付きや発見につながった。

(2) 保育教諭が好奇心を持って遊ぶ過程に沿って，園児の姿を丁寧に捉え，遊びの面白さに共感し気付かせるような援助や，気付きや発見を引き出す言葉掛けを工夫したことで，園児が遊びの中で新たな気付きや発見をすることができ，好奇心を持って遊ぶ姿につながった。

２　課題

本研究では，しゃぼん玉遊びに焦点を当てて実践を行ったが，他の遊びの場においても，好奇心を持って遊ぶ過程に沿った環境構成と援助の工夫を継続していく必要がある。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』　内閣府･文部科学省･厚生労働省　フレーベル館　2019
『事例で学ぶ保育内容　領域　環境』　無藤隆　萌文書林　2011
『保育の基本と環境の構成』　神長美津子　ひかりのくに　1998
『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』　無藤隆　東洋館出版社　2018
『幼児期から児童期への教育』　国立教育政策研究所教育課程研究センター　ひかりのくに　2005